

模本資料に基づく「年中行事絵巻」の想定復元模写 —東京・田中家蔵 住吉本を中心として—

東京藝術大学大学院美術研究科

五十嵐 有紀

本研究は、消失した原本に代わる模本事例として東京・田中家蔵 住吉本「年中行事絵巻」（以下、住吉本）を取り上げ、実技的観点から作品図像の検証を行い、「年中行事絵巻」原本（以下、原本）像とその制作工程について試論を提示するものである。

はじめに

原本は、模本と文献史料によって現在に伝わる絵巻で、平安院政期に後白河院の下命を受けて複数の宮廷絵師が制作したとされる。後世の文献によれば全 60 巻存在したと推定されるが、原本成立当時の文献が存在しないために真偽は定かでない。しかしながら、幅広い学術分野に影響を与える史料価値の高い内容であったことから、その消失が惜しまれている。

「年中行事絵巻」の模本類は複数系統現存し、そのうちの一系統に住吉如慶（以下如慶）・廣澄（具慶）ら筆の住吉本がある。住吉本は、その描写の質と量に加え現存最古の模本であること、そして同奥書ⁱの内容を根拠として最も原本に近いと位置づけされた模本で、住吉本図像との比定によって原本の制作に国宝「伴大納言絵詞」筆頭絵師が関与したとする説が提唱され有力視されてきた。しかしその一方で、模写であるために研究史料としての図像の限界、つまり模写精度が不明である点と図像に「摹し崩れⁱⁱ」が含まれる点が指摘されてきた。しかし筆者が調べた限りでは、これまで行われてきた住吉本図像に関する考察は主に美術史的観点からのもので実技的観点からの考察は行われておらず、その図像の限界に関する指摘には検証の余地があると思われた。そこで筆者は、検証によって住吉本の模写精度を明らかにした上で原本像を想定し、復元する本研究を着想した。



図1. 住吉本年中行事絵巻 巻一（朝観行幸）（部分）

検証

本研究では描写の完成度が高く原本に関する情報量が多いといえる住吉本巻一（部分）に焦点を当て、①模写精度の検証と②作品画面にみられる違和感の検証を行った。

①住吉本の模写に使用された料紙とその継ぎ目に着目して模写精度を検証ⁱⁱⁱした結果、その制作方法は極薄の紙（図2）をほぼ同幅に切り揃えて使用した計画的な敷き写しで、原本図像を正確に記録することを重視して制作した模本であると推定できた（図4）。しかし、図像を正確に写すことを最優先したために機械的なトレース作業となり、絵画としての空間意識が損なわれた平板な印象となった可能性が考えられた。とはいえ、図像を構成する線描については極めて高い精度で原本像を捉えている可能性が高いと結論できた。

先学では、住吉本図像に「摹し崩れ」が見られる点が史料としての限界の所以とされてきた。しかし本検証結果に基づく知見から、如慶らはすでに「摹し崩れ」ていた図像を正確に写し取った可能性が指摘できた。つまり、住吉本に含まれる図像の「摹し崩れ」は如慶らによるものではなく、原本制作時に生じたものであると考えるのが自然であると思われる。さらに踏み込んで原本像を仮定すると、技量の異なる複数の絵師の「合作」で「摹し崩れ」た図像を含んでいた原本は後白河院の関与が確実視される他の作例と比較して違和感のある作品であったと言える。当時、数々の名作を描かせた後白河院がこのような「年中行事絵巻」を制作させた背景にはどのような経緯があったと考えられるだろうか。



（上）図2.
紙継ぎで隠れた描線が透けて見える程料紙が薄い
（下）図3.
「摹し崩れ」ている図像

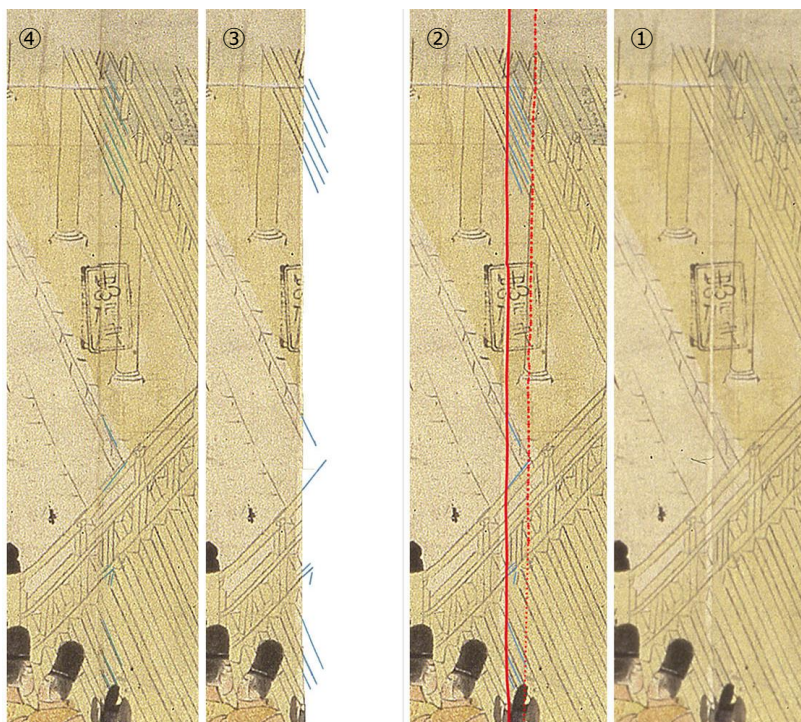
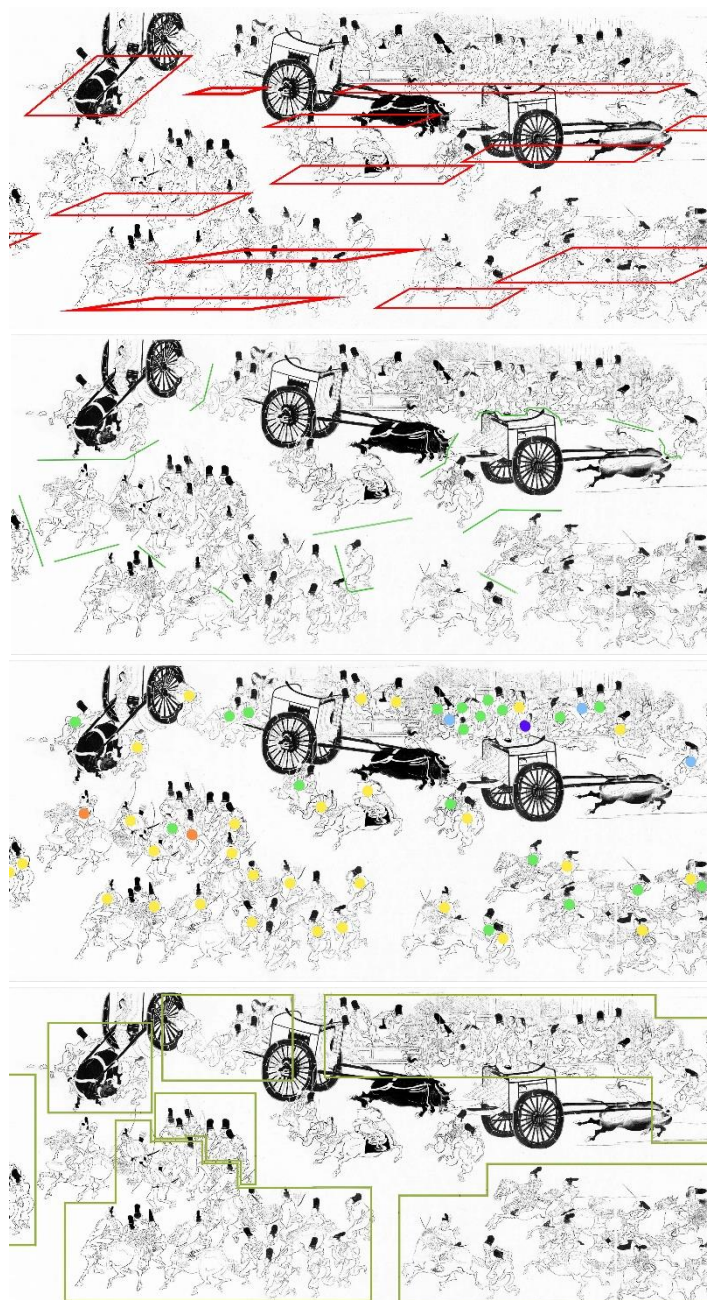


図4. 継ぎ目部分に描かれた図像の検証
右から順に①画像加工前②継ぎ目の重なり（赤線）と重なりの下から透けて見える図像（青線）③継ぎ目で隠れていた図像（青線）④継ぎ目で分断された左右の図像を重ね合わせて比較

②4つの観点（図5.モチーフの俯瞰角度、図6.隣接するモチーフ同士の位置関係、図7.描写寸法、図8.作風）から住吉本図像に見られる違和感について検証を行ったところ、右図のような結果となった。絵画的な統一感に欠けた部分を図像の境界線として捉えることで、画面全体を分割することができた。このことから、住吉本の手本となった「年中行事絵巻」は異なる条件下で制作された部分的な図像の集合体、つまり複数の下図^{iv}を組み合わせることで画面構成し、その下図を料紙に転写して制作したものと推測できた（図9）。よってこの点から推察して、下図の転写作業において図像に「摹し崩れ」が生じた可能性があり、さらに原本制作に使用された下図の一部に「伴大納言絵詞」の筆頭絵師筆の図像が含まれていたために住吉本図像中に「伴大納言絵詞」の作風が継承されたと想定すると辻褄が合うように思われた。



上から順に図5.モチーフの俯瞰角度、図6.隣接するモチーフの位置関係、図7.描写寸法、図8.作風において統一感の欠如を検証

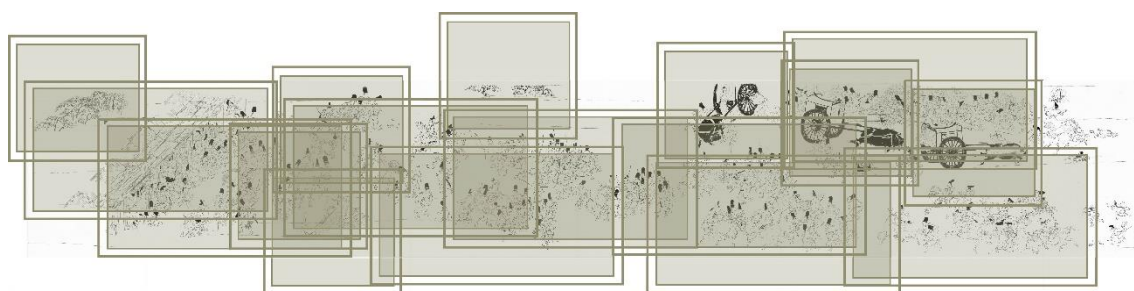


図9. 検証結果から推測された原本制作時の下図

まとめ

上記検証で導き出した原本の制作方法からは、作品をより良く演出する上で重要な絵画表現の統一性よりも作業効率を優先した可能性を見做し得た。この点から、後白河院が制作させた他の作例とは異質な「年中行事絵巻」の性格を明示することができたといえる。あるいは、院は「年中行事絵巻」制作に際して絵画作品としての描写の質や空間表現を極限まで高めた美しさを求めず、日常的な喧騒を伴った都の風景を敢えて写實的に描かせたと考えることができ、さらには貴族中心の宮中行事のみならず民間風習までが混在して描写されることから、後白河院が生きた当時全ての要素を凝縮させて描き収めることが「年中行事絵巻」制作の目的であったようにも思われた。

「年中行事絵巻」成立の背景には、武家勢力の台頭によってもたらされた後白河院の権力衰退の影響が指摘される。このような時流において制作された「年中行事絵巻」は、後白河院が治天の君として眺望してきた時間と空間の全てを一度に掌握するためのパノラマであり、現世への執着心や院の王朝文化の再興への切なる願いが強く込められていたのではないだろうか。

付 論：想定復元

最後に、これまでの検証結果と関連分野の文献資料から得た情報を総合して試みた原本の想定復元工程を述べる。まず事前調査として、公益財団法人 出光美術館のご協力のもと、原本と制作環境が近いと推測される同時代作例「伴大納言絵詞」の熟覧調査を行い、料紙（製紙工程、寸法）・色料・筆致について制作の参考にした。特に住吉本に使用された色料については顔料だけでなく染料による透明色の彩色も多く見られることから、不透明顔料を多用したやまと絵作品であった可能性が高い原本を忠実に再現した彩色ではないことが推測された。よって、住吉本画中に記録された色註と「伴大納言絵詞」の情報を照合して適切だと思われたものに置き換えて使用した。

想定復元模写は、はじめに住吉本のフィルム画像を用いて原寸大カラーコピーを作成し、上げ写しによる線描の抽出を行った。線描を写し取った料紙に肌裏を打った後に料紙を継いでひとつの画面に仕立て、想定復元のための下図とした。次に、「伴大納言絵詞」を参考に製作した料紙を下図の上に載せて固定し、線の様式や空間の意識を加えて修正しながら線描を転写した。住吉本の線には、筆の入りが強く寝かせ気味の筆で掬うような筆致が多く見られたため、このような特徴を修正することで、院政期作例に見られる線の再構成を試みた。下図の転写が終了した全ての料紙に肌裏を打ち、張り込みをかけて整形後に紙継ぎした。乾燥後に地塗りをを行い、粒子が細かい顔料から徐々に粗い顔料に推移するように彩色を施した。平安時代の絵画作品の特徴として、装飾的な表現であるが同時に写實的で、画面全体が平面的な空間で描かれるものの描写されたモチーフには各々の間で位置関係が成立しており感覚的に描き分けられている点を挙げるができる。本研究の想定復元模写においても、このような点に配慮をしながら注意深く彩色を行った。彩色の完

成後、別個で作成しておいた軸棒と表紙を接合して卷子に仕立てた。



図 10.「年中行事絵巻」巻一（部分）の想定復元

謝辞

本研究を行うにあたりご協力いただきました公益財団法人 出光美術館 黒田泰三先生、公益財団法人 陽明文庫 名和修先生、立教大学図書館および東京藝術大学美術館の関係者様に厚く御礼申し上げます。

-
- i 所々言葉者雅経卿 絵者光長 年中行事全拾六巻者、仙洞様為_レ 勅定_一 家重宝^二 可_レ成者也、又者、朝廷之 御用可_レ立 思 召由、池尻宮内卿殿、為_レ奉_一 拝借_一 写所也、誠至_一 子々孫々_一 堅有_レ 義、不_レ如_レ之。此筆風以可_レ為_一 一流鑑_一。必少時不_レ可_一 他見_一 者也、朝覲行幸七段有 所持法橋 住吉如慶（印）」
- ii 福井利吉郎『絵巻物概説 下』 1933 や鈴木敬三「風俗から見た伴大納言絵詞一作期と筆者」 1960 などと同様のことが指摘される
- iii 巻一においては料紙の継ぎ目全 63 か所中（うち 5 か所については場面展開の切り替えを伴う継ぎ目であるため、検証からは除外）48 か所の継ぎ目部分の図像が一致していた
- iv 院政期成立の多くの絵巻作例では料紙が『延喜式』規定寸法「1 尺 2 寸×2 尺 2 寸」以内に該当するため、おそらく原本や下図類に使用された料紙についても同規定の該当寸法であった可能性が高いと推測し本検証結果に反映させた。尚、図で示した下図は基準となる料紙寸法を 1 尺 2 寸×2 尺 2 寸（二重枠の外枠）と想定し、基準紙の耳部分（四辺）を 5 分幅で裁ち落とした寸法^{iv}（二重枠の内枠）を併せて示した。